

少年期における「自分らしさ」の芽生え

牧瀬 翔麻 (筑波大学大学院／教育行政学)

おおかみこどもの雨と雪

- ◆ 種別：DVD (アニメーション映画)
- ◆ 監督：細田 守
- ◆ 製作年：2012 年
- ◆ 製作国：日本
- ◆ 発売元／販売元： バップ
- ◆ 時間：本編 115 分
- ◆ 音声：日本語
- ◆ 字幕：日本語



写真撮影： 牧瀬翔麻

あらすじ

普通的女子大学生「花」と人間の姿のおおかみ男が出会い、ふたりの間に生まれたおおかみこども。それが、雪の降る日に生まれ活発で好奇心おおせいな姉の「雪」と、雨が降る日に生まれ気弱で臆病な弟の「雨」だった。おおかみ男の事故をきっかけに、一人でこどもたちを育てることになった花。おおかみと人間の両方の性質をもつこどもたちの子育てに悪戦苦闘する花のそばで、こどもたちはのびのびと成長していく。雪と雨は、多くの出会いや経験のなかから、おおかみこどもとしてそれぞれの歩む道を悩み、考え、発見していく。

シーン再現

<学校生活から人間としての自分らしさに気づかされた雪と、学校を離れ、山の先生(きつね)からおおかみの本能に気づかされた雨は、お互いの意見で対立する>

雨：雪も先生のところで教えてもらおうよ。狩りのしかた、上達するよ(中略)。

雪：行くわけないでしょ。

雨：なんで。

雪：あんたこそなんで学校に来ないのよ。

Chapter	
1. オープング / 1'22	16. 雪の日の発見 / 5'08
2. 彼との出会い / 2'33	17. 老おおかみ / 5'55
3. それぞれの生活 / 3'14	18. みんなと違う / 2'57
4. 付き合い / 2'48	19. 転校生 / 3'12
5. 彼の告白 / 3'27	20. ごめんなさい / 3'20
6. 妊娠 / 3'25	21. おおかみはすき? / 3'51
7. 雪と雨そして彼 / 4'56	22. 山の先生 / 4'03
8. おおかみこどもの子育て / 2'40	23. おおかみか人間か / 3'08
9. 苦悩と決意 / 4'42	24. 母のお願い / 4'17
10. 新しい家 / 4'52	25. 決心 / 3'32
11. 秘密と約束 / 4'08	26. 嵐 / 4'45
12. おおかみはわるもの? / 4'06	27. 鏡の中の二人の姿 / 6'49
13. 野菜づくり / 5'39	28. 旅立ち / 5'22
14. 保育園にいきたい / 1'50	29. 今 / 1'52
15. 収穫とコツ / 3'14	30. エンディング / 5'14

※ チャプタータイトルは、一部、内容がわかるように筆者が補った

雨：おもしろいんだもん、山。知らない
こといっぱいあるから。
雪：知らなくていいの。
雨：なんで。
雪：いいから学校に来なさいよ。

雨：…、やだ。
雪：なんで。
雨：おおかみだから。
雪：人間でしょ。
雨：おおかみだろ。

教育学の視点から

本作品の興味深い点は、幼年期と少年期で雨と雪の描かれ方が正反対に転換している点である。幼年期には活動的であり、おおかみの特性に近い行動をとっていた雪が、小学校で同年代の女の子や転校生である草平と出会い、おおかみと人間の間で葛藤を感じつつも人間としてふるまう選択をする。誰もいない校内で雪と草平が鏡をみて「早く大人になりたい」とつぶやく場面や、雪が思い切っておおかみであることを草平に告げる通過儀礼のような場面からは、迷いながらも人間として生きたいという雪の強い決意を感じ取ることができる。

反対に、幼年期に泣き虫でさびしがり屋のように人間らしく描かれている雨は、学校という人間社会から離れ、人に飼育された老おおかみや山に住むきつねの先生との出会いを契機に、自分とは何者なのかを考えていく。生前の父の姿を花に尋ねたり、母の願いを聞かずに山に入っていくという行動は雪にはみられないものであり、おおかみとしての生き方を決心していく過程が描かれている。

2人の自己形成に作用したものは何であったのだろうか。言い換えると、同じようにおおかみと人間の間生まれ、花から同じような愛情をうけて成長した2人は、雪は人間、雨はおおかみという道をどうして選択したのだろうか。CHAPTER 14 または 18 にみられるように、雪は積極的に人間集団としての社会（保育園や学校）へのコミットに対して強いこだわりをもっている。友人の草平を傷つけたときも、学校に行けなくなるという強い不安や後悔の思いを、花を目の前にして述べている。一方で雨は、4歳のときに雪の日の山中で本能的に狩りをしようと試み、川へ落ちてしまう（CHAPTER 16）。花や雪が心配で涙を流すなか、無事助かった雨だけはおおかみの本能に目覚めたことで自信をつけ、その後は人間社会よりも自然（老おおかみや山ぎつね）に対して、行動が向くことが多くなっているようにみられる。それぞれの生きる道には、その環境（学校あるいは山という自然）やそこで出会う多くのヒトからの刺激が強く影響している。特異な場面設定ではあるものの、他者からの影響という考え方は、人間の子どもたちにも大きく共通するところがあるだろう。幼少期に出会う教師や友人、地域の人々が与える影響は、教育学においても重要な視点である。

Information

【DVD】細田守監督の代表作品として、以下の映画がある。

- ・『時をかける少女』製作年：2006年、販売元：角川書店、時間：本編 98分
- ・『サマーウォーズ』製作年：2009年、販売元：バップ、時間：本編 115分

【書籍】細田守『おおかみこどもの雨と雪』角川書店、2012年

これからの歩む道を、自ら決める